分校だより 特別号

地域と共に歩む
大曲農業高等学校太田分校
〈ＴＥＬ〉０１８７（８８）１３１１
〈ＦＡＸ〉０１８７（８６）９０３５

思いを胸に、新しい世界へ！

３月２日（木）は同窓会入会式・授賞式、３日（金）には卒業証書授与式が行われました。同窓会入会式では、同窓会長清水川輝雄様からお祝いの言葉と入会記念品が送られました。卒業生を代表して秋山大紀君が記念品の目録を受け取り、高橋遥菜さんがお礼の言葉を述べました。

３月３日（金）の卒業証書授与式では、校長先生から一人ひとりが卒業証書を受け取りました。大仙市太田支所長安達成年様はじめ多くのご来賓の方々や保護者の皆様に見守られながら行うことができました。式の後、在校生や職員の大きな拍手に送られながら３年間の思い出を胸に、笑顔で分校をあとにしました。

同窓会入会式

同窓会長清水川輝雄様（写真右）
高橋さんのお礼の言葉（写真左）

目録を受け取る秋山君（写真上）

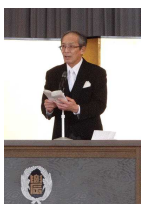
授賞式

担任の冨樫先生より各賞ごとに指名点呼しました。

代表者が後藤教頭先生より賞状をいただきました。

卒業証書授与式

式歌を歌う卒業生
担任を先頭に入場する様子（右上）



校長先生から一人ひとり卒業証書をいただきました。

卒業生にとっては最後の校歌斉唱。思いもひとしおです。

【送辞】

送辞　寒さが残りつつも、日差しに温かさを感じられる季節となりました。この度、大曲農業高等学校太田分校を卒業される三年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。在校生を代表して心からお祝い申し上げます。

卒業生の皆さんが太田分校に入学されて、はや三年が過ぎました。皆さんは、太田分校の校門を初めてくぐった日からこれまでを、今、どのように振り返っているでしょうか。

たくさんの行事や生徒会活動、部活動など様々な思い出が走馬灯のように巡っているのではないかと思います。

二年前、初めての高校生活に慣れない私たちを見て、皆さんは優しく声をかけて下さいました。そのおかげで、私たちは安心して高校生活のスタートを切ることができ、また、皆さんとの仲をより一層深めることができました。入学当初は初めて経験する事が多く、何も分からない私たちは三年生の皆さんを手本にし、勉強や学校行事に取り組みました。

五月の全校田植え競技会では、初めは私たち二年生と同じくらいのペースで競技をしていた皆さんですが、最後は数秒の差で逆転をし、三年生が優勝しました。このときの先輩方は、周りを見て遅れている所はないか探し、助け合いながら作業をしていました。そのチームワークはとても素晴らしく、私たち二年生は到底適わないものだと感じました。

九月のグラウンドゴルフ大会では、先輩方は地域の方々と和気藹々と活動していました。その姿を私たちは、驚きとともに羨望の眼差しで見ていました。私たち下級生は地域の方と思うように会話ができなかったので、来年は先輩方のように、積極的に話しかけ、コミュニケーション力を高めていきたいと思います。

また、進路活動では、放課後も遅くまで熱心に調べ、先生方に相談されていました。その真剣な姿は、自ら抱いた夢の実現のためには、努力を惜しんではならないということを、私たちに示して下さっているようでした。最後まで諦めず、失敗しても立ち上がり、泥臭く見られても歯を食いしばって突き進む姿は、私たちを奮い立たせました。

このように、最高学年として、後輩を気遣い、様々な行事で率先し、粘り強く物事に向かう先輩方の姿を私たち後輩は見習わなければなりません。

今、先輩方はそれぞれの胸に夢や希望を抱いて、この門出の席につかれていることと思われます。太田分校で培った互いに協力し合って一つの目標を達成すること、地域の方々との交流を通し学んだコミュニケーション力を存分に発揮し、新たな世界でも活躍されることを願っています。

私たち在校生は、個性溢れる三年生の皆さんのように、一人ひとりが自分の考えを持ち、先輩方に示していただいた、「協力することの大切さ」、「努力を惜しまないこと」、「強い意志を持つこと」を受け継ぎ、より良い学校にしていくことを誓います。春から始まる、新生活で皆さんの力が発揮され、活躍されることをお祈りして、送辞とさせていただきます。

平成二十九年三月三日

在校生代表　藤本海奈

【答辞】

答辞　学校を見守る沢山の木々から、少しずつ春の訪れを感じられる季節となりました。本日は、ご来賓の皆様、保護者の皆様のもと、このように盛大な卒業式を挙行していただき、卒業生一同、心より感謝申し上げます。

私たちが太田分校に入学して、三年の月日が経ちました。つい最近まで教室でストーブの場所取りをしていたことを思うと寂しさを感じます。しかし、沢山の経験を積むことができた日々は充実していたと胸を張っている自分もいます。

三年前の春、私たちは高校生活に希望と不安を抱えつつも、中学校ではできなかったことに挑戦しようと決意し、校門をくぐりました。

これまでの自分を変えたいという思いはあるものの、当初は失敗を恐れ、周りに身を任せることも多くありました。授業中も消極的な態度から抜け出すことができず、自分の意見を言えないまま後悔することもありました。自分の思いを伝えられないことから逃げるように、ふざけて騒がしくし、先生方に迷惑をかけてしまったこともあります。

しかし、二年生で行ったインターンシップが、積極的に行動する大切さを教えてくれました。働くということは、様々な人と関わることであり、私たち自身の意志がなければ続けられないのだと気づくことができたのです。

三年生になり、部活動や生徒会活動において、私たちが学校を引っ張る時が来ました。より良い太田分校にすることを目指すだけでなく、先輩として後輩の模範となれるように活動してきました。活動の中には私たちだけではできなかったこともあり、周りからの支えのおかげで活動できたことを私たちは忘れません。

学校行事は私たちの成長に欠かせないものでした。

運動会、ホームルーム対抗、紅葉祭はクラスの絆をより深めてくれました。今年の紅葉祭ではお客様に喜んでもらえるように工夫し、初めての模擬店をすることによって、今までにない活気を生みました。

この学校ならではの田植え競技会やグラウンドゴルフ大会、全校民謡発表会を通して培ったこともあります。それは私たちのクラスには失敗した人を責める人は誰一人としていないことです。これは私たちクラスの自慢です。私たちはお互いを尊重し、仲間と共に自分を高める努力を怠らないクラスになることができました。自分を必要としてくれる仲間がいる。そして、私自身を成長させてくれる仲間がいるという安心感。それが何よりも嬉しく感じました。

また、私たちの成長に欠かせないものは学校行事だけではありませんでした。部活動や少人数での学習によって、中学時代は苦手だった「人前で話すこと」や「自ら考えること」などに自信をつけることもできました。小さな学校、太田分校でなければ学べなかったことだと思います。

そして、私は生徒会長の仕事を通して、自分自身を変えることができました。中学時代には経験できなかった学校のリーダーとしての責任や自覚を強く持てるようになったからです。最初は不安で上手くいくか分からなかったことも仲間と共に知恵を出し合うことで乗り越えることができました。また、不安を抱えていた私は先生から「自分なりの生徒会を作れば良い。」という言葉をいただきました。このように先生方からの言葉によって何度も励まされ、自分の持っている力を出し切ろうと前向きになれました。

何度失敗しても決して諦めず、最後までやり遂げることができたのは、担任の冨樫先生や近くで見守ってくれた先生方のおかげです。先生方の応援は何よりも支えとなり、励みになりました。嬉しいことがあれば一緒に喜び合い、間違いがあれば正してくださいました。学習面でも決して手を抜かず、私たちが自信を持てるように懸命に指導していただきました。

これから私たちは新しい地へと飛び立ちます。たとえ上手くいかなく、失敗が続いたとしても私たちは負けません。この学校で出会えた仲間、先輩、後輩、そして先生方から学んだことを存分に発揮し、社会で必要とされ、信頼されるように力強く生きていきます。

在校生の皆さん、これからも太田分校生としての自覚をもち、この学校を今よりも素晴らしい学校にしていけるように全校生徒一丸となって頑張ってください。

最後になりますが、太田分校で過ごした三年間、どんな時も支えてくれた家族、沢山笑い合った在校生の皆さん、そして最後まで応援してくださった先生方、全ての方々に感謝いたします。

今まで本当にありがとうございました。

母校の更なる発展とご活躍を祈念いたしまして答辞とさせていただきます。

平成二十九年三月三日

卒業生代表　伊藤　広斗